

長期管理施設の詳細調査候補地における「平成27年9月関東・東北豪雨」による影響に関する調査の結果について

平成27年11月30日
環 境 省

【調査日時】

平成27年10月14日（水）10：15～11：25

【調査目的】

- (1) 「平成27年9月関東・東北豪雨」（以下「豪雨」という。）による詳細調査候補地への影響について、専門的知識に基づき調査すること（本調査は詳細調査とは異なるもの）。
- (2) (1) の調査結果について、塩谷町に報告すること。

【調査場所】

栃木県塩谷郡塩谷町寺島入地内（詳細調査候補地内及びその周辺）

【調査実施者】

環境省：谷和夫・東京海洋大学教授（環境省指定廃棄物処分等有識者会議委員）
熊倉基之・環境省指定廃棄物対策担当参事官室計画官
山崎寿之・同室長補佐
佐藤朗・同室長補佐
新崎晃・同室長補佐
箕輪富男・環境省関東地方環境事務所保全統括官

【立会者】

栃木県：西村友良・足利工業大学教授（栃木県指定廃棄物処分等有識者会議委員）
湯澤元浩・環境森林部参事
久保昌幸・環境森林部廃棄物対策課長 他
塩谷町：見形和久・町長
星育男・指定廃棄物処分場対策班長
手塚礼知・町議会議長 他

【調査結果】

1. 視認などにより確認した現地の状況

- ・ 詳細調査候補地内の地表面の一部に帯状に細砂（細かい砂）が堆積していることを確認した。（写真①）
- ・ 詳細調査候補地内及びその周辺の土砂は、層厚が薄いことや粒度が細かく、巨

石が含まれていないことを確認した。

- ・一定方向に倒れた低木や立木に捕捉された流木を一部確認した。
- ・蛇行部の外側の攻撃斜面では、侵食を受けて側壁に固結した地層（火山砕屑岩）が露出する場所が一部見られた。（写真②）
- ・地盤への被害を与えるような河川のはん濫を証明する事象は確認できなかった。

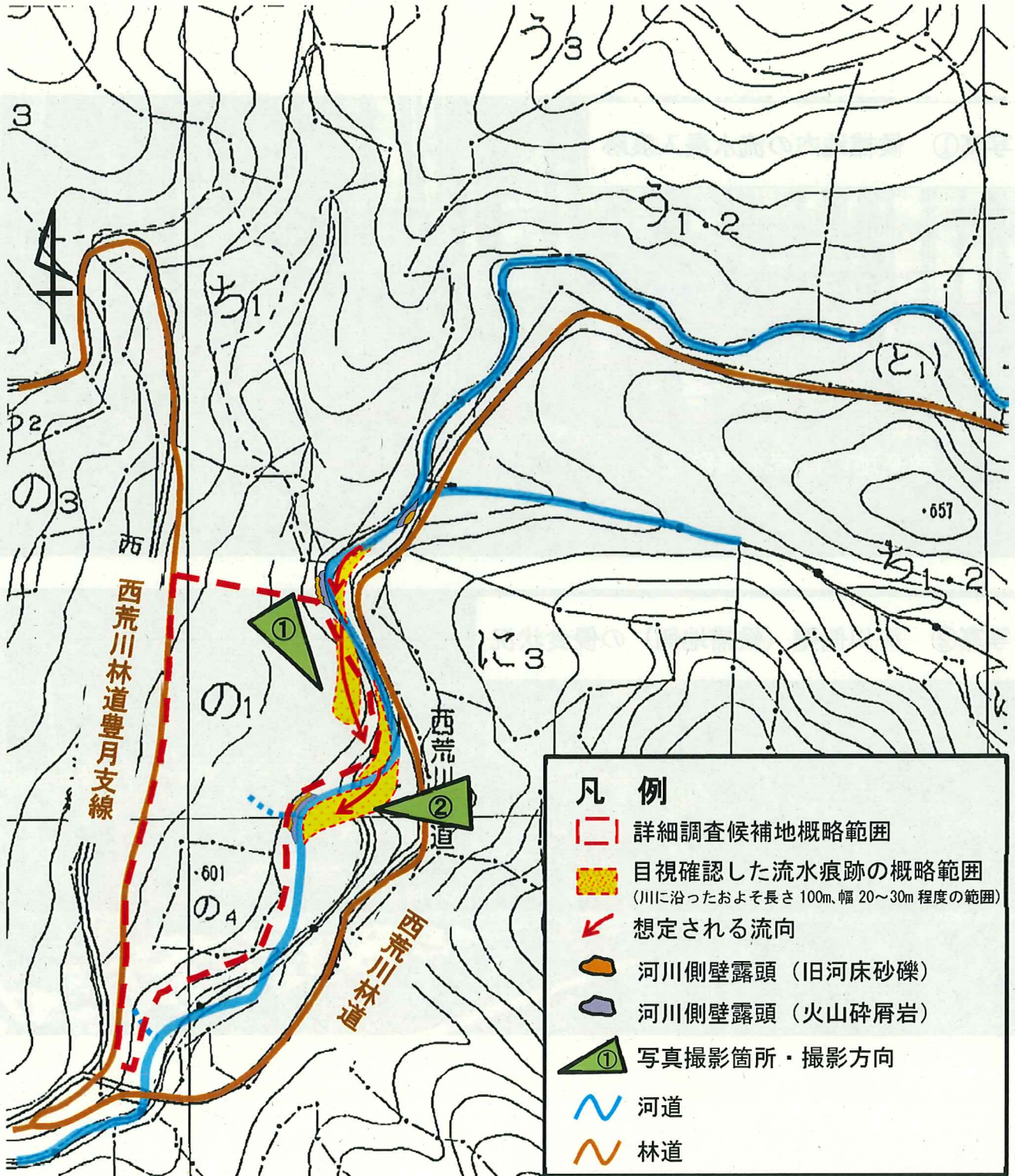
2. 考察

- ・詳細調査候補地内の地表面の一部に帯状に堆積している細砂は、冠水の形跡と考えられる。
- ・正確には測量が必要であるが、詳細調査候補地内及びその周辺のうち、川に沿ったおよそ長さ 100m、幅 20～30m 程度の範囲に冠水があったと考えられる。
※詳細調査候補地の面積は約 3.0ha（うち長期管理施設の必要面積は約 2.8ha）。冠水があったと考えられる長さ 100m、幅 20～30m のエリアは、計算すると 0.2～0.3ha に相当するが、実際にどの程度の面積が冠水したかは測量しないと分からない。
- ・冠水があったと考えられる場所の堆積物は主に細砂であることから、流入した水の勢いは強くはなかったものと考えられる。
- ・蛇行部の外側の攻撃斜面の侵食については、苔や草木が繁茂していないことから、比較的新しい侵食であると考えられる。一方で、豪雨でどの程度溪岸が後退したのかは不明である。
- ・詳細調査候補地内及びその周辺の土砂は、層厚が薄いことや粒度が細かく、巨石が含まれていないことから、大規模な土石流の影響を受け易い場所ではないと考えられる。

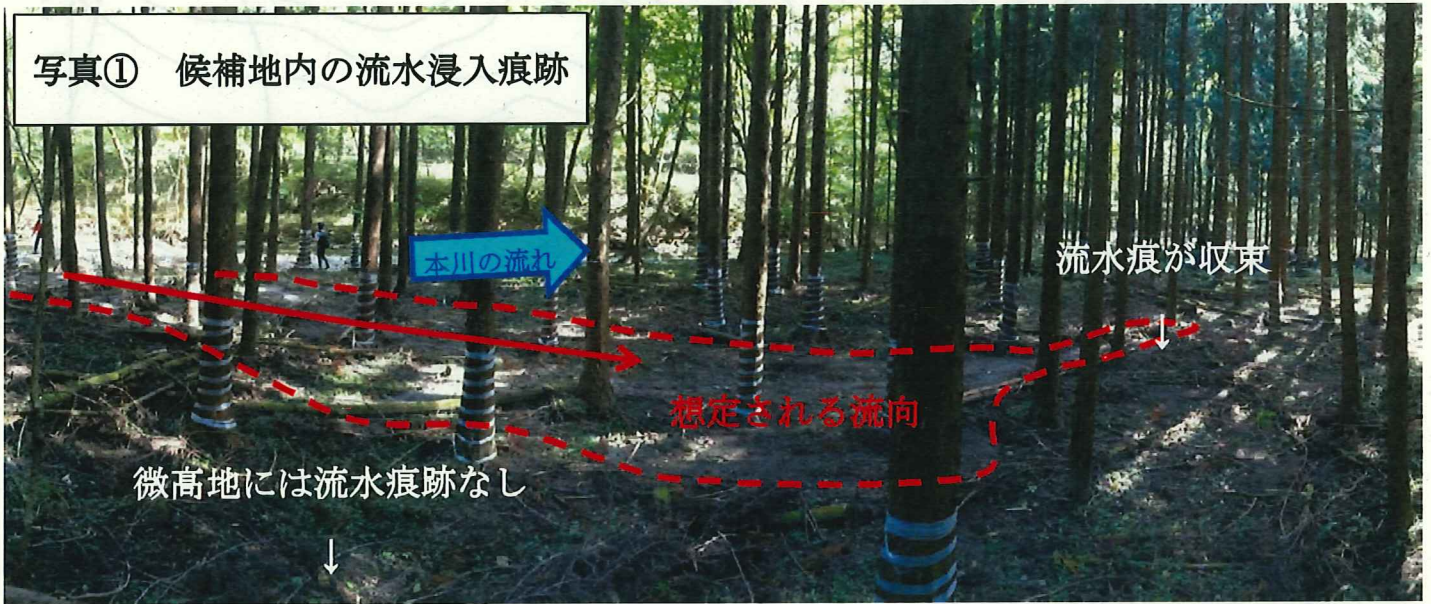
3. 結論

- ・豪雨により、詳細調査候補地内の一部で冠水があったものと考えられるが、冠水があった場所に流入した水の勢いは強くはなかったと考えられる。
- ・詳細調査候補地の周辺の溪岸の一部に豪雨による水流で侵食されたと思われる場所があった。
- ・冠水があったと考えられる面積や蛇行部の侵食の程度など、今回の豪雨及びこれに類する大雨による影響をより正確に把握するには、過去の降雨量の確認と併せて測量や踏査を行うなど更なる調査が必要である。

詳細調査候補地及びその周辺の地図



写真① 候補地内の流水浸入痕跡



写真② 河川側壁（候補地側）の侵食状況

